

山田町大沢地区民生委員児童委員協議会

(平成 25 年 7 月 19 日掲載記事)

震災後、山田町には仮設住宅が 46 か所・1,940 戸建設されました。

大沢地区民児協では、毎年、小学校と連携し、地域の 65 歳以上のひとり暮らしまたは日中ひとり暮らし高齢者を対象に、夏には 4 年生による高齢者宅への訪問活動、冬には小学 3 年生による昼食交流会を開催しています。

平成 23 年は震災の影響で開催できなかったため、平成 24 年には 4 年生と 3 年生合同で昼食交流会を開催しました。

小学校の多目的教室で子ども達の楽器演奏やよさこいソーラン踊りの披露、紙芝居や縄跳びの披露などが行なわれ、高齢者は普段見ることができない子どもたちのはつらつとした発表に目を細めていました。

昼食は、高齢者と子どもたちが交互に座り、民生委員・児童委員手作りのお汁粉や味噌汁、酢の物など用意し、ひとり暮らしや仮設住宅ではあまり作る機会のない料理に舌鼓を打っていました。

子どもたちと高齢者それぞれ感想を発表した後、子どもたちがアーチを作り高齢者を見送り解散となりました。

訪問活動については、仮設住宅の談話室に集まって高齢者と小学生の交流を行ないました。参加した高齢者からは、「子どもとふれあうことで元気をもらえた」「また次回も参加したい」との声が聞かれました。子どもたちも、核家族化により日頃高齢者から話を聞く機会が少なくなっているため、昔話に驚きながら、とても興味を寄せていました。平成 2 年から続けている活動なので、今後も長く受け継いでいきたいと思えます。

震災から 2 年が経過し、仮設住宅で暮らす高齢者のなかには引きこもりがちになり、元気がないように見受けられる方もおられます。また、在宅で生活されている方であっても、以前のように周囲に住民がおらず、話し相手がなく寂しい思いをされている方も見受けられます。被災からこの間、施設に入所されたりデイサービスに通われたりする高齢者も増えました。社協が主体となっている行事や民児協として行なっている「お座敷サロン」への呼びかけを継続して行なっています。

以前のような地域の状況に戻るにはまだまだ時間を要します。地区で孤立死が発生しないように、今後も積極的に声かけなどを続けていきたいと考えています。

また、委員自身も震災直後は、その責任感から自分のことは二の次に活動していました。委員自身の心の健康にも気をつけながら、前に進んでいければ、と考えています。



平成 24 年に大沢小学校で開催した「昼食交流会」の様子



「昼食交流会」が終わり、高齢者をアーチで見送る小学生と笑顔で帰路につく参加者